

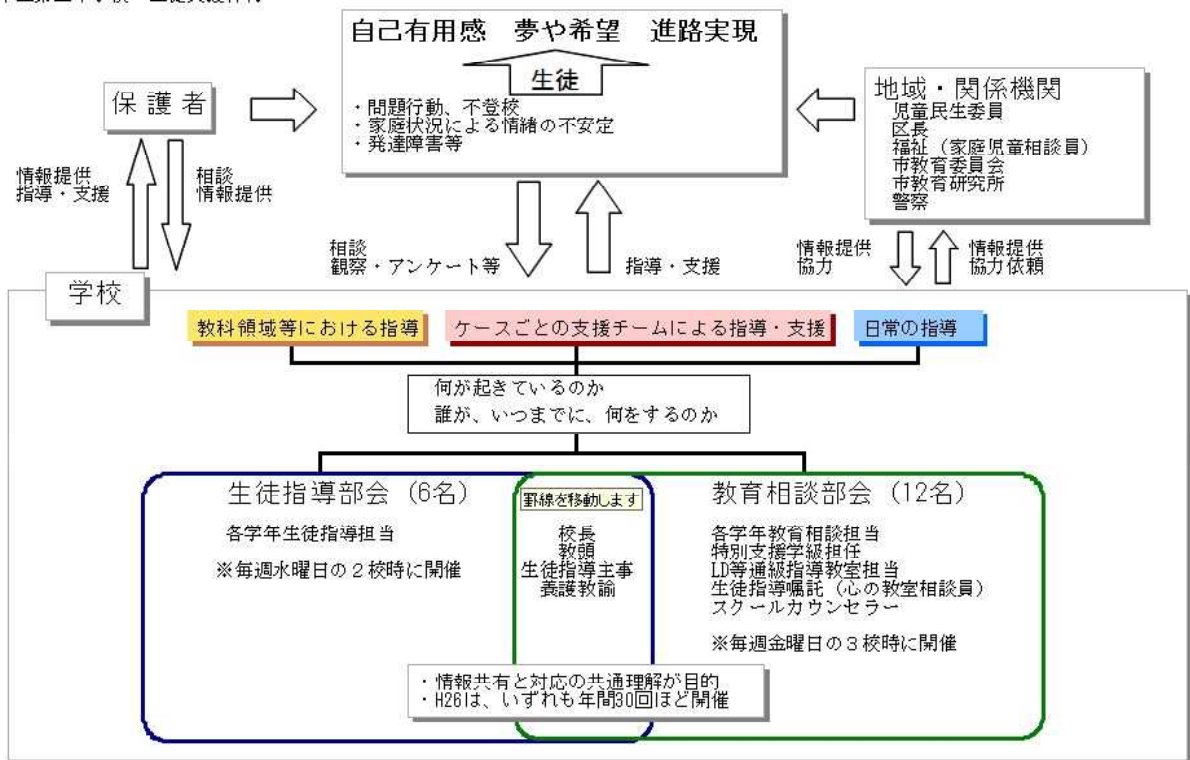
東部の指導だより

東部教育事務所
学校教育係発行第12号
平成27年7月22日

館林市立第三中学校では、様々な生徒に対してケースごとの支援チームによる指導・支援を行っています。かつて問題行動が多発して大変な状況であった学校が、職員の役割分担を明確にした組織的な生徒指導により、学校全体が落ち着き、生き生きと学校生活を送る生徒の姿が見られるようになりました。

7月10日（金）県教育委員さんが三中を訪問してこの取組を御覧になり、是非他の学校にも広めてほしいと絶賛してくれました。自校の生徒指導体制づくりの参考としていただきたく概要を紹介します。

館林市立第三中学校 生徒支援体制



資料1 連携

生徒指導部会



教育相談部会
(特別支援教育部会)

連携

部員が手分けをして
関係職員とミニケース会議



生徒指導部会 教育相談部会 (特別支援教育部会)



管理職による連絡調整により、状況によって具体的な手立てを変える

PDCAサイクル

報告
連絡
相談

資料3 チーム支援を可能にする役割分担

Aさんはパニックになりやすく、衝動的な行動をする

未然防止

担任 ・ 日頃から、信頼関係づくりをする	通級担当 (特別支援) ・ けんかになりそうなときどんな行動をしたらよいかを教える	SC ・ パニックになるスイッチをさがし、担任等がどう接したらよいかをアドバイスする	管理職 ・ チーム支援方針の決定 ・ 保護者対応 ・ 関係機関との連携
--------------------------------	---	--	---

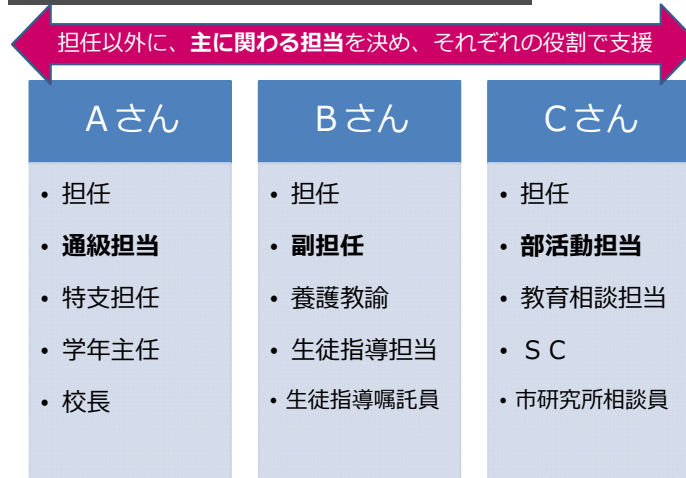
Aさんが友達とトラブルを起こし、けんかをしている

早期対応

担任 ・ 話を聞いて、落ち着かせる	教育相談担当 ・ やさしく声をかけ、不満や悩みを聞き、なぐさめる	生徒指導担当 ・ 落ち着いてから、暴力はいけないことを指導する
-----------------------------	--	---

資料4 「複数の生徒に対応する」チーム支援

Aさんの学級のBさん、Cさんも支援を要する場合



生徒指導部会、教育相談部会（特別支援教育部会）による調整

資料5 生徒のニーズに応じて、居場所をつくる



通級教室（集団適応を目指す）



相談室1・2（心の安定を目指す、長期）



保健室（心を落ち着かせる、短期）



相談室3（SC等との相談）

資料6 わかる授業の取組

発達障害等のある生徒を含めて、どの子にもわかる授業づくりを学校全体で行う

視覚化 説明に図や絵を用いる		スモールステップ 解き方を順序よく、スモールステップで説明	
焦点化 授業の導入時活動の見通しを示す		生徒主体の活動 教師の説明を減らし、生徒の活動を多く	
共有化 考えを共有するペア学習		少人数学習 数学授業における学習状況に応じた支援	

詳細については、東部教育事務所のWebページを御覧ください。